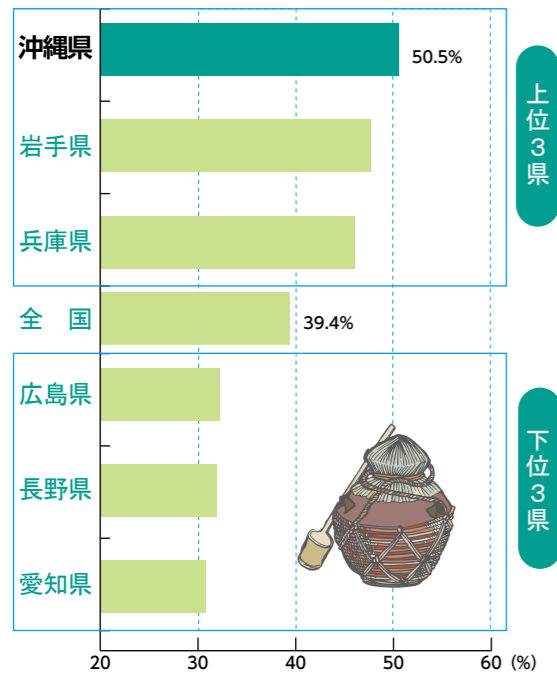


【「単式蒸留しょうちゅう」の製造免許場数】
(2010 年度)



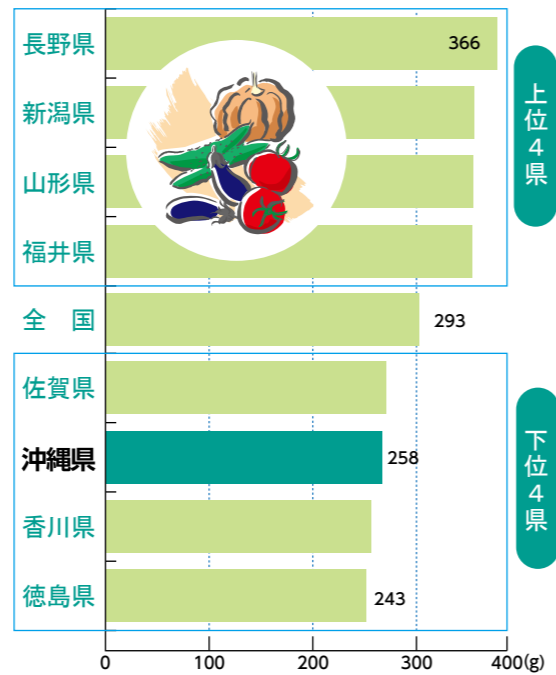
53 件

年月が醸し出す芳醇な薫りと柔らかな味わいが魅力の古酒、地域色豊かで個性ある銘柄の数々…。泡盛は沖縄の歴史を受継ぐ文化であり県産品の代表格だ。5月に沖縄復帰特別措置法の一部が改正され、懸念されていた酒税特別措置の5年延長が決まった。県産で県内出荷の泡盛は35%、ビールは20%の軽減措置が継続される。

泡盛の酒類製造免許の区分は「単式蒸留しょうちゅう」(旧・焼酎乙類)。国税庁2010年度「統計年報書」によると、当区分での場数は53場で、鹿児島県に次いで第2位だ。現在の県内の泡盛酒造所数は48件で、鹿児島県内の焼酎メーカー件数を上回っている。軽減措置は5年の時限措置で継続は未定だ。戦後から伝統の味や手法を守り続けた泡盛業界の正念場ともいえる。泡盛を“沖縄文化大使”として、広く世界も視野に入れた展開の可能性に期待したい。

(海邦総研人材開発部/屋比久有紀)

【1日の野菜摂取量】
(2010 年)



258 グラム

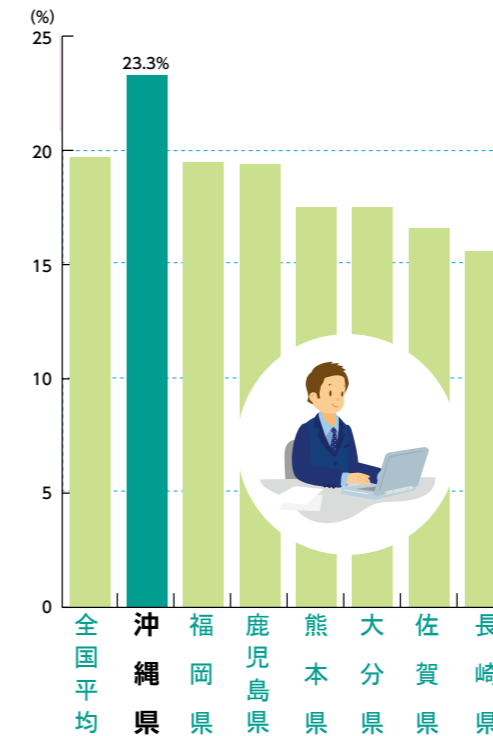
もともと、ありあわせの野菜に豆腐や保存食の塩漬け豚肉などを加えて炒めたのが“チャンプルー料理”。なかでもゴーヤーチャンプルーは、もっとも有名な沖縄家庭料理だろう。テレビ番組で紹介される機会が増えたニンジンシリシリも、お手軽料理として全国区になりつつある。

厚生労働省「2010年国民健康・栄養調査」によると、県内20歳以上男女平均1日あたりの野菜摂取量は、258g。全国で3番目に少ない。1位の長野をはじめ、東日本が上位を占めている。

八百屋やスーパーでハンダマ、ナーベラーなど多くの島野菜が並ぶ一方で、“うちな〜んちゅ”の野菜不足がうかがえる。野菜はカロリーが低いため、肥満や糖尿病予防に役に立ち、カリウムやカルシウム成分を含むため、高血圧、がん予防にも役立つ。これから、暑い夏を迎える沖縄。夏野菜と豚肉で“くんち”をつけてはいかが？

(海邦総研人材開発部/安田ひろみ)

【狭義テレワーカー率】
(2011 年)



23.3%

普及が進む IT 機器。データ通信の高度化やエリアの拡大に伴い、さまざまな場所でメールや仕事に関する電子ファイルも利用できるようになった。

国土交通省「2011年テレワーク人口実態調査」によると、11年の沖縄県の狭義テレワーカー率は23.3%になり、全国で3番目に高く九州ではトップだ。

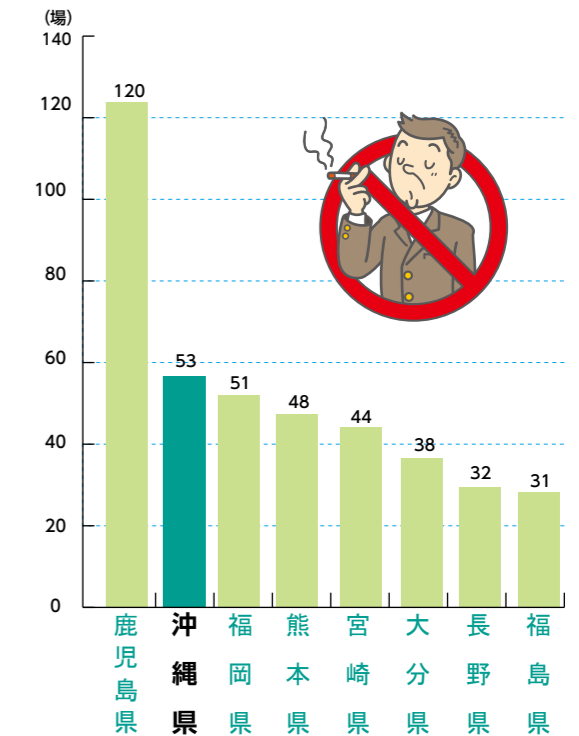
狭義テレワーカーとは、自宅やサテライトオフィス(遠隔地事務所)など本来の職場以外で働く「テレワーク」を週8時間以上経験した人を指し、東日本大震災の影響による勤務形態の見直しや IT 機器の進化もあり増えてきているという。

職場外で働くメリットは、電話や周囲の声に邪魔されずに業務に集中できることらしい。

仕事の出来る人は場所を選ばずに集中力も続くようだが、あなたは自己管理能力に自信はある？

(海邦総研事業支援部/比嘉明彦)

【禁煙に挑戦したい喫煙者の割合】
(2010 年度)



50.5%

健康志向の高まりにより、喫煙者の割合は年々減少しているといわれている。

ファイザー株式会社が2011年9月に行った調査によると、禁煙に挑戦したいと考える喫煙者の割合は、沖縄県が全国で最も高く、50.5%となっている。さらに、過去1年間に禁煙に挑戦した割合は45.7%で、これも堂々の全国第1位。沖縄では禁煙の気運が高まっているといえそうだ。

ただし、過去1年間に禁煙に成功した人の割合は19位であり、決して高いとはいえない。禁煙治療の保険適用や、各種禁煙補助剤など、禁煙を助ける手段は増えている。上手に活用して、成功率でも上位を目指したいところ。

禁煙の成功には、周囲の人々の理解や協力も大きな効果をもたらすと考えられる。身近な人が禁煙に挑戦しているときには、温かい目で見守り、みなが応援しよう。

(海邦総研事業支援部/鮫島智行)